● 2026 年度　中学入試　第 1 回　社会　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問 1　(1) アイ	60％	63％	農林水産省の資料や食料自給率の年推移などを元に出題した。設問に対して、資料の数値をしっかり読み取る判断を求めた。オーソドックスな資料判別問題（家畜の飼養数や養殖量）も出題した。	論述問題（問3(2)・問6）では、聞かれていることに正確に答えられていない解答が多かった。設問が何を聞いているのかをしっかり把握した上で資料を読み取ることができるようにしたい。
	(2)	29％	39％		
	問 2　カキ	3％	8％		
	問 3　(1)	76％	83％		
	(2)	3％	6％		
	(3)	73％	74％		
	問 4　サシ	40％	48％		
	問 5	94％	93％		
	問 6	17％	23％		
	問 7	49％	49％		
2	問 1	81％	88％	例年と似たようなカード形式での出題。基本的な知識の習得を前提として、正誤問題や並び替えの問題を出題した。複数の知識の組み合わせや正確な読み込みを正誤文では求めた。	問6と問13は毎年のように出題している形式。知識自体も基本的な事項なので高い正答率となっている。小問ごとも高い正答率となり、大問2の平均得点率も6割を超えている。しかしながらその中でも漢字のミスがかなり多くもったいなかった。
	問 2　(1)	65％	77％		
	(2)	52％	69％		
	問 3	79％	84％		
	問 4	57％	69％		
	問 5	46％	48％		
	問 6	96％	98％		
	問 7	81％	83％		
	問 8　(1)	56％	66％		
	(2)	62％	70％		
	問 9	62％	66％		
	問 10	42％	53％		
	問 11	44％	52％		
	問 12	44％	51％		
	問 13	91％	96％		
	問 14　(1)	79％	86％		
	(2)	55％	60％		
3	問 1	97％	100％	基本的な内容をしっかり理解できているか、社会科の各分野との関連が理解できているか、時事的な問題へ関心をもっているかを確認した。	概ね受験者全体が基礎的な内容を理解していた。一方で問3のように参議院選挙の時事的なデータ、問9の板垣退助のような他分野への理解、問12(1)の立法の仕組みなどで合否を分けた。過去問の研究を早めに行い、対策をとることが大事である。
	問 2	75％	83％		
	問 3	64％	73％		
	問 4	89％	98％		
	問 5	85％	91％		
	問 6	81％	82％		
	問 7	87％	88％		
	問 8	62％	67％		
	問 9	69％	78％		
	問 10	87％	93％		
	問 11　(1)	18％	22％		
	(2)	64％	71％		
	問 12　(1)	43％	50％		
	(2)	2％	3％		

● 2026 年度　中学入試　第 1 回　理科　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問 1　(1)	43 %	52 %	食物消化と血液循環を主として人体のつくりとはたらきの理解を問うた。 突飛な知識は知っている必要はない。しかし、たとえば解答個数の指定がない記号選択式の問 1 のように、生半可な理解では正答が見出しづらいであろう問いも含んでいる。	各種の知識を習得するとき、一問一答式に覚えて断片的に理解することで終わりにせず、一つの現象を流れとして説明するなど、全体像を明確にとらえるよう努力してほしい。 全体にかなり実力差がついたなかで、合格答案は、しっかりした理解に到達していることをうかがわせるものがあって、頼もしい。
	(2)	32 %	49 %		
	(3)	43 %	61 %		
	問 2	13 %	13 %		
	問 3	84 %	90 %		
	問 4	89 %	97 %		
	問 5	60 %	70 %		
	問 6　(1)	60 %	74 %		
	(2)	42 %	60 %		
	(3)	29 %	42 %		
2	問 1	98 %	100 %	火山に関する理解を問うた。入試に関する基本的な知識に関する出題が多いため、受験勉強の成果を出しやすい出題である。	受験勉強をしっかりとしてきている受験生にとっては、初見の事項はなかったのではないかと思われる。仮に知らない事柄があったとしても、リード文（会話文）がヒントになる部分も多く、それをしっかりと読んで理解する力があるかどうかも同時に問う形となっている。
	問 2	74 %	79 %		
	問 3	19 %	29 %		
	問 4	24 %	28 %		
	問 5	63 %	70 %		
	問 6	68 %	69 %		
	問 7	55 %	68 %		
	問 8	98 %	99 %		
	問 9	57 %	63 %		
3	問 1	71 %	78 %	金属と酸素が反応することを酸化という。また、酸化物が元の金属に戻ることを還元という。酸化によって生成する物質にはどんなものがあるだろうか。反応の前後での重さはどのように変化するのだろうか。以上のような酸化還元反応をするときの規則性について、実験データから量的な計算が出来るかどうか、基本的な知識が身についているかを問う問題である。	酸化還元反応について、問うている。問 5 は予想より出来ていなかった。金属全般について問うているが、受験生には難しかったようだ。設問によって、出来不出来の差が大きく、問題文をきちんと読解できるかどうかで差がでたと思われる。読解力をつける学習が必要と感じる。
	問 2	94 %	99 %		
	問 3	40 %	54 %		
	問 4	55 %	70 %		
	問 5	13 %	22 %		
	問 6	32 %	41 %		
	問 7	62 %	72 %		
4	問 1　(1)	91 %	98 %	受験生にはあまりなじみはないであろう「記録タイマー」を敢えて題材にして、知識のレベルよりは、問題文をよく読みながら条件を整理、測定結果を、力と運動の関係から適切に解釈できるかを問うことを狙いとした。	問題で説明されている通りの内容について問う問題に対しては得点率が高いが、それをもとにもう一段階、力と運動の関係を考察して逆算的に思考するなどの必要のある問いではで明確に得点率の開きが出た。
	(2)	81 %	91 %		
	問 2	51 %	53 %		
	問 3　(1)	36 %	43 %		
	(2)	40 %	46 %		
	(3)	75 %	80 %		

● 2026 年度　中学入試　第 2 回　国語　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問 1	43 %	51 %	新傾向のマルチ・テクスト問題で、過去問題からの予想、対策は困難ながら、受験生の地頭や読解力の根幹を問うことをねらった。新旧にわたる複数テクストを読み比べ、異同を頭で整理しながら考える力が求められた。	微細な難問にも予想以上によく正答できていた一方で、巨視的にながめ大局をつかむタイプの問題となるとてきめんに苦戦する受験生が数多く見受けられた。
	問 2	92 %	96 %		
	問 3	60 %	76 %		
	問 4	59 %	70 %		
	問 5	39 %	40 %		
	問 6	72 %	89 %		
	問 7	50 %	59 %		
	問 8	54 %	68 %		
	問 9	67 %	84 %		
	問 10	57 %	73 %		
2	問 1　a	83 %	88 %	例年、何題か出題されている、少し古い文章からの問題であった。今回もおおよそ大正時代を舞台にした作品であったが、そういう作品を読み慣れているかどうかで差がついたと思う。	概ね解答の根拠が遠かったものは得点率が低く、近かったものは高かった。問3のように少しとんちが効いた問題も出してみたが、思いのほか得点率が低かった。横書きの文字を右から読んでいた時代があった、ということを知っていれば簡単だった。 また、問9のような全体を俯瞰する問題についてきてほしかった。
	b	87 %	90 %		
	問 2　(1)	49 %	60 %		
	(2)	84 %	91 %		
	(3)	72 %	78 %		
	問 3	29 %	40 %		
	問 4	78 %	89 %		
	問 5	58 %	68 %		
	問 6	28 %	34 %		
	問 7	80 %	91 %		
	問 8	86 %	98 %		
	問 9	24 %	35 %		
3	問 1	56 %	65 %	目に見えるものだけが全てではなく、その裏側に本質が隠れていることを伝える牟礼慶子の口語自由詩からの出題。鮮明なイメージを喚起する言葉選びと静かな心情の吐露に作者のメッセージを読み取りたい。	問1は詩の形式を問う定番の出題だったが、選択肢の五七・七五調のリズムに気付けない解答も多かった。全体にオーソドックスな出題であったが、特に詩の場合比喩の解釈がカギとなる。また、今回最も回答率が低かったのは詩のタイトルを問う問5。作品の核心となる言葉や情景、印象的なフレーズを用いることが多く、詩を読む際にはタイトルを意識することを心掛けて欲しい。
	問 2	58 %	68 %		
	問 3	59 %	69 %		
	問 4	63 %	74 %		
	問 5	8 %	9 %		
4	問 1　1	85 %	90 %	漢字は四字熟語、同音異義語、訓読みの文字などを中心に漢字自体は難しくなくても語彙レベルが高いものを出題した。 問2はことわざ。少しひねって、対義のものも出題し、より深い知識の定着を問うた。	漢字は語彙レベルがそれ程低いものではなかったが、よく書けていた。特に同音異義語に関してはよく勉強してきている。 またことわざに関してもよく勉強してきていることが伺える。 本校の問題傾向から言えば、漢字の部首や字義系統の問題と定着率にかなり差があると言える。
	2	43 %	51 %		
	3	66 %	82 %		
	4	83 %	86 %		
	5	97 %	99 %		
	問 2　1（Ⅰ）	90 %	96 %		
	1（Ⅱ）	89 %	95 %		
	2（Ⅰ）	99 %	99 %		
	2（Ⅱ）	91 %	96 %		
	3（Ⅰ）	98 %	99 %		
	3（Ⅱ）	91 %	97 %		
	4（Ⅰ）	96 %	97 %		
	4（Ⅱ）	88 %	94 %		
	5（Ⅰ）	97 %	98 %		
	5（Ⅱ）	91 %	95 %		

● 2026 年度　中学入試　第 2 回　算数　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	(1)	96％	98％	計算・逆算から、仕事算や売買（数量と売上）などの文章題、最小の分数、組合せ、角度情報を使う面積、直方体の切断による体積比までを短問で広く出し、条件整理→式化→正確に処理する総合的な基礎力を測る。	前半の計算・逆算で確実に得点し、仕事算は「全体を 1」として式を立て切れたかがポイント。分数の最小化や組合せは条件整理の丁寧さが必要。問 7 は角度の和に気づき図形を回転させて 1 つのまとまりにする力、問 8 は切断後の体積比を相似で捉えられるかがカギ。
	(2)	95％	98％		
	(3)	91％	95％		
	(4)	94％	98％		
	(5)	90％	96％		
	(6)	34％	53％		
	(7)	20％	34％		
	(8)	76％	88％		
2	(1)	95％	98％	平行四辺形内の分点と交点を題材に、相似・平行線の性質と「比」を軸にした追跡力を問う。部分の長さ比を連鎖させて求め、さらに面積比へつなげる“図形の比の一貫処理”ができるかを見る。	平行線・相似を押さえたうえで“同一直線上の比”にそろえると見通しがよい。問 1 は中点や分点の位置取りを図に書き込み、比を連鎖させるのが肝。問 2 は点の順を取り違えやすく、約分しながら進めると安定。問 3 では長さ比→面積比への変換を意識できたかで差がつく。
	(2)	88％	97％		
	(3)	44％	66％		
3	(1)	87％	96％	座席配置の条件（端の席指定、隣りの定義、特定の 2 人を隣にする等）を正確に読み取り、場合分けと順列で数え上げる力を測る。追加条件（隣にならない）では補集合や排除の考えで整理できるかを見る。	座席配置は条件の読み違いが起こりやすい。図に状況を書き込み、場合分けの基準を先に決めたい。『隣にする』は一塊にして順列で数え、『隣にならない』は全体－隣になる場合（左右どちらの隣かも区別）で処理すると重複を防げる。
	(2)	26％	43％		
4	(1)	89％	95％	立方体をつなぐと重なる部分の部材が共有される設定を通して、重複を意識した数え上げ（辺・頂点）を問う。さらに三面図（上・正面・右）から立体構成を復元し、空間把握と体系的カウント力を測る。	竹ひご・ねんど玉の立方体は、つなげると辺や頂点が共有されるため単純加算は危険。基準の立方体を考え他のパーツを付け足していくと良い。三面図は配置を仮定→上・正面・右で矛盾チェックの往復が有効で、見えない部分を想像で埋めると崩れやすい。
	(2)	80％	89％		
	(3)	29％	44％		
5	(1)	54％	73％	独自ルールの操作（割る→四捨五入→倍→余り加算）で定義された数を扱い、手順を正しく実行する力と、規則性（周期・増え方）を見抜いて総和や最小の条件達成を効率よく求める力を測る。	手順計算は②の四捨五入で値が飛ぶため、思い込みで式変形すると崩れる。まずはいくつか試して対応表を作るのが近道。規則が見えたら周期性を使い、総和や最小条件をまとめて処理できる。計算は手順番号を追って丁寧に。0.5 付近の境界処理（切り上げ／切り捨て）に注意。
	(2)	19％	32％		

● 2026 年度　中学入試　第 2 回　理科　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問 1	71 %	77 %	植物の光合成を題材にした問題である。問1、問4は教科書の知識が定着しているか問う知識問題。問2、問3、問5～9はリード文から最適解を導き出す能力があるか否かの確認する問題である。問10の計算問題も混在し、複合的な能力を試している。	基本的な知識がある。特に合格者はしっかりと用語を覚えてきている。 実験考察問について、リード文をしっかり読み解き、最適解を導き出す能力がある。 計算問題について、文章から計算式を立て、解法を導き出す能力が必要。
	問 2	95 %	97 %		
	問 3	97 %	99 %		
	問 4	73 %	84 %		
	問 5	77 %	81 %		
	問 6	89 %	94 %		
	問 7	96 %	97 %		
	問 8	99 %	100 %		
	問 9	96 %	98 %		
	問 10	47 %	55 %		
2	問 1	97 %	98 %	現在生息しているブナの葉と、ブナをはじめとする植物の葉の化石を比較し、過去の気候（気温）を推定してみる問題である。問1～問3については、基本的な化石の知識を問う問題であるが、問4～問8については、与えられている図や文章を正しく理解することで答えを導く問題になっている。	問1～問3までは得点率が高く、化石についての基本的な理解はできていることがわかる。問6は計算ミスなどにより、若干、得点率が低くなっている。また、問8は正しく計算できていなかったり、図や文章を正しく理解できていなかったりするため、若干、得点率が低くなっている。ただ、全体的には想定していたよりはるかに高い得点率であった。
	問 2	97 %	99 %		
	問 3	85 %	93 %		
	問 4	91 %	94 %		
	問 5	97 %	98 %		
	問 6	67 %	77 %		
	問 7	75 %	85 %		
	問 8	62 %	75 %		
3	問 1	88 %	91 %	酸とアルカリの中和の関係性・その中和により生成する物質の質量の関係性を表から読みとり、計算に活かすことができるかどうかを問うた問題である。	情報を表から読み取り、整理していくことができる受験生が多かった。その情報を読み取りながら、計算過程が増えていくにつれて、正答率が下がっているが、それでも対応できている生徒が多かった。 問4～問6（1～3）では、正答率にばらつきがあり、差のつく問題となった。
	問 2	96 %	98 %		
	問 3	85 %	92 %		
	問 4	84 %	93 %		
	問 5	65 %	79 %		
	問 6　(1)	84 %	94 %		
	(2)	52 %	74 %		
	(3)	36 %	56 %		
4	問 1	97 %	99 %	光の進み方（直進・反射・屈折）について、前半は基本事項を理解しているかを、後半は与えられた式を利用して問われている値を導けるかを問うようにした。問1～問4までは完答を目指してほしい。問5と問6は問題文をしっかり読めば、難しくないと思われる。問7は三角形の斜辺が半径となることに気がつけばよい。	いずれの問いも想定していたよりはるかに高い得点率であった。初めて見る問題であっても、問題文をしっかり読み取る力が備わっていると感じた。しかしながら、問3の得点率が最も低かったのは意外であった。質問の仕方に慣れていなかったかもしれない。
	問 2	97 %	98 %		
	問 3	59 %	69 %		
	問 4	82 %	90 %		
	問 5	94 %	97 %		
	問 6　(1)	89 %	98 %		
	(2)	79 %	92 %		
	問 7	75 %	88 %		

● 2026 年度　中学入試　第３回・グローバル　国語　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問１	30％	43％	経験・環境や固定観念などにより無意識に形成され、日常生活の様々な場面に影響する「バイアス」を論じた文章からの出題。「フレーミング」「係留と調整のバイアス」という耳慣れない言葉は多少硬質な感じはすると思うが、具体例も豊富で抽象的な表現も少ない論説文で読み易かったと思われる。	問１の脱文挿入は今回のように具体例が脱文になることが多い。段落の切り替わりをおさえて読むことが大切。本文の内容から図表の数値を捉える問3、筆者の主張理解を具体例で問う問5･問8などは回答率も高かったが、問６の記述は今回も低調。キーワードの重複を避け、主張を凝縮した言い換えなどに留意して指定文字数に収める工夫が求められる。
	問２　(1)	54％	70％		
	(2)	72％	78％		
	問３	72％	83％		
	問４	51％	71％		
	問５	70％	66％		
	問６	28％	40％		
	問７	65％	80％		
	問８	84％	95％		
2	問１	34％	53％	異性の立場に立って、場面状況や背景描写、台詞から微細な気持ちの変化を読み取ることができるか。また、時代背景が古いものでも、細かい文章の描写から登場人物が置かれている立場や心理を正確に読み取ることが出来るかを測る。	設問の半数で、合格者と全受験者の平均点の差を出せたのは良かったと思う。中盤以降の文章読解の中心となる設問において正解率が50パーセントを切る問題が複数見られ、登場人物の心理や作品テーマがつかみきれていないと感じる。
	問２	76％	86％		
	問３	83％	87％		
	問４	54％	57％		
	問５	45％	62％		
	問６	45％	49％		
	問７	32％	39％		
	問８　はじまり	44％	60％		
	おわり	17％	22％		
	問９	23％	39％		
	問10	39％	50％		
3	問１	62％	71％	基本的な詩の形式や表現技法を問う問題、内容解釈の問題など基本的な知識・理解を問うことをねらいとして出題した。出典は教科書にも掲載されるような有名な詩から出題をした。	問１のような詩の形式を問う問題は頻出である。その中で理解が不十分な解答が散見された。しっかりと韻文の学習をするだけではなく、普段から詩を読む機会を増やしてもらいたい。
	問２	40％	39％		
	問３	63％	73％		
	問４	33％	38％		
	問５	48％	49％		
4	問１　1	51％	57％	漢字の書取りについては、漢字自体の難しさより、語彙として適度に難しいものを選ぶようにしている。 部首の問題は説明会等でお知らせしているとおり、毎年どこかの回で出題するようにしている。なぜなら､漢字の学習には、大きな意味を表す部首の知識が必要だから。	特に部首の問題は対策していれば点が取れる傾向にある（当然だが）。部首・部首名は知っていても意味は知らないというものがあれば、ぜひ漢和辞典などで意味を調べておいてほしい。
	2	69％	79％		
	3	85％	92％		
	4	66％	68％		
	5	41％	51％		
	問２　ア Ⅰ	85％	88％		
	ア Ⅱ	65％	75％		
	イ Ⅰ	56％	63％		
	イ Ⅱ	21％	30％		
	ウ Ⅰ	87％	95％		
	ウ Ⅱ	75％	84％		
	エ Ⅰ	79％	88％		
	エ Ⅱ	41％	54％		
	オ Ⅰ	56％	75％		
	オ Ⅱ	57％	71％		

● 2026 年度　中学入試　第３回・グローバル　算数　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	(1)	92％	95％	基本的な計算力と、特殊算の基本的な力があるかを確かめる小問集合。四則演算、過不足算、食塩水の濃度、整数、場合の数、平面図形、空間図形を出題した。種々の問題を早く正確に処理する能力を問うものである。	例年に比べると、解きやすい問題が多かったため、得点率が全体的に高かった。問６はすべての正方形を数え切れていないため、また問８は表面積を求めるときの計算ミスのために、他の問題より多少得点率が低かった。
	(2)	82％	93％		
	(3)	92％	96％		
	(4)	97％	100％		
	(5)	83％	96％		
	(6)	59％	83％		
	(7)	68％	72％		
	(8)	59％	71％		
2	(1)	91％	100％	本校の入試では典型的な平面図形の問題。相似比から辺の比を求めるなど基本的な知識や考えを問う標準的な問題である。問題の条件に加えて補助線などを利用し、辺の比や面積の比を求めて進めていくことができるかがポイントとなる。	問１は問題文の２つの条件から辺の比を求める基本問題であり、得点率は高かった。問２の面積比の問題も問１の結果を利用し、補助線を利用して求める問題であり、受験生にとっては解きやすい問題であった。
	(2)	70％	89％		
3	(1)	92％	97％	特殊算の複合問題。問１はニュートン算の基本問題。問２は問題文を整理し、面積図などを利用してつるかめ算の考え方で解く標準的な問題である。	問1、問２ともに問題文を整理し、面積図などを利用して適切に解き、得点に繋げている受験生が多かった。合格を勝ち取るためには確実に得点したい問題である。
	(2)	75％	89％		
4	(1)	44％	70％	整数の問題である。問１はカードの並べ方を問う場合の数の標準問題。問２はＡの条件を図や最小公倍数の考え方から式を作り、求める問題。問３は問２の結果からＢの条件を整理し、Ｂの各位を見つけていく問題であった。	問１はＡ、Ｂそれぞれ各位の数の選び方を求めてかけて解く基本問題であったが想定より得点率は低かった。問２は最小公倍数の考えに気づかず、つまずく受験生が多かった。問３は問２の結果に加えて、さらに場合分けをおこなって解く問題であったため、さらい低い得点率となった。
	(2)	45％	83％		
	(3)	29％	62％		
5	(1)	40％	68％	問題文のルールに従って、立方体の面をくっつけ、問題文の条件に合う立体の表面積を求める問題である。条件に合う立体を適切な図をイメージして考えることができるかがポイントとなる問題である。	問１と問２は問題の条件に合った立体がイメージし易い問題であったが、想定より多少低い得点率であった。逆に問３はイメージしにくい難易度の高い問題であったが、図などを利用し、理由まで適切に求めている受験生が想定より多かった。
	(2)	53％	72％		
	(3)	39％	56％		

● 2026 年度　中学入試　第３回　社会　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問１　(1)	51％	67％	気候温暖化問題を取り上げた新聞記事をもとに出題し、ブナの材質の特徴や熱中症についての基本知識、宮沢賢治の詩など、幅広く出題した。地理に関する知識問題は基本的な知識を問う内容とした。	過去問で出題している「泥炭地」や「エルニーニョ現象」などの問題は確実に解答してほしい。「イノベーション」の正答率は数％に止まっており、もう少し時事問題に関心をもって受験に臨んでほしい。
	(2)	22％	25％		
	問２　(1)	88％	89％		
	(2)	49％	75％		
	問３	58％	72％		
	問４	41％	59％		
	問５	50％	56％		
	問６　a	52％	67％		
	b	3％	5％		
	問７	71％	85％		
	問８	12％	13％		
	問９　a	79％	97％		
	b	51％	67％		
	問 10	33％	36％		
2	問１　(1)	68％	75％	国宝である５つの城の所在地を地図で示し、城に関連する人物や所在地にまつわる歴史事項を近現代までの範囲にわたって出題・確認した。地理分野の基礎力とともに、近現代までの歴史的総合力を求めた。	単答式問題では、比較的高い得点率となった一方で、正誤選択問題や年代整序問題において得点率の低さが見られた。歴史的基本事項をそれぞれ関連づけて整理するとともに、歴史の流れを重視した学習を継続するよう期待したい。また、歴史分野の基本事項については、漢字による正確な記述力が必要である。
	(2)	12％	13％		
	(3)	60％	77％		
	問２　(1)	29％	46％		
	(2)	82％	84％		
	問３　(1)	39％	56％		
	(2)	63％	72％		
	問４　(1)	26％	21％		
	(2)	55％	75％		
	(3)	62％	69％		
	問５　(1)	54％	66％		
	(2)	83％	93％		
3	問１　(1)	88％	98％	受験勉強の傍らに、時事問題に目を向けてニュース等を見ているかを１つの軸とした。普段、当たり前のようにある生活の中でいかに興味を持って調べ学習をしているかどうかが鍵となる。勉強の中で意味が分からない言葉や制度等は自分で探究する時間を取ってほしい。	正解率が高い問題と低い問題にはっきりと分かれた。現在、消費税が何％なのか知らない受験生が半分いるということに驚いている。覚えないといけない単語はしっかり覚えているが、少し応用的に聞くと正答率が下がっているイメージである。一般的な聞かれた方ではない聞かれ方も自分で想定して多角的に考えていく必要がある。
	(2)	94％	100％		
	問２	26％	31％		
	問３	26％	39％		
	問４	78％	77％		
	問５	65％	70％		
	問６　(1)	71％	84％		
	(2)	43％	61％		
	問７	96％	97％		
	問８	75％	84％		
	問９　A	65％	64％		
	B	7％	11％		
	C	34％	52％		
	問 10	43％	54％		

● 2026 年度　中学入試　第 3 回　理科　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問 1	96 %	95 %	ホタルの行動から動物の生態理解を題材にした問題である。問1、問2、問4は教科書の知識が定着しているか問う知識問題。問3、問5、問6は文章の読み解きができるか確認する問題。問7、8はリード文から最適解を導き出す能力があるか否かの確認するため問題を出題した。	基本的な知識はあるが、問4のように、間接的に知識を問う問題に難があった。リード文から知識を紐づける能力が必要。文章の読み解き問題や実験考察問題も同様に、一部、既知の内容でない場合にもリード文からヒントを探して解答を導く能力が必要。
	問 2	90 %	97 %		
	問 3	73 %	85 %		
	問 4	51 %	54 %		
	問 5	63 %	74 %		
	問 6	85 %	90 %		
	問 7	36 %	52 %		
	問 8	58 %	69 %		
2	問 1	88 %	97 %	〔Ⅰ〕については、可視光線で観測する望遠鏡以外に、電波望遠鏡があることを題材にして、身近なレントゲン検査や赤外線カメラから電磁波の種類や、ブラックホールが撮影されたことがニュースになったことから、ブラックホールについて問う問題である。〔Ⅱ〕については、南半球での星空の見え方を含めて、星の動きについて問う問題である。	問3は恒星のことを問う問題であるが、若干、得点率が低くなっている。知らなかったことが多かったようである。問4の星座名を問う問題の得点率は高いが、問5や問6のような星の動きを問う問題の得点率は低い。実際の星空を眺めたことがあれば、正しく答えられたのではないかと考えられる。また、問7や問9のような南半球での星空の見え方を問う問題は、南半球のイメージを持つことが難しいため、得点率は低い。問8は、オリオン座の三ツ星は、春分や秋分の日の太陽が通る経路と同じ動きをすることを知らないと解けない問題である。
	問 2	57 %	77 %		
	問 3	24 %	31 %		
	問 4	87 %	93 %		
	問 5	66 %	67 %		
	問 6	32 %	38 %		
	問 7	21 %	30 %		
	問 8	29 %	38 %		
	問 9	39 %	54 %		
3	問 1　A	98 %	100 %	気体をテーマに気体の性質や気体の密度に関する問題を出題。気体の基本的な知識と計算力をはかることをねらいとした。	概ね想定通りの結果となった。問4までは典型的な問題であるが、そこから条件を複雑化したときに落とさずついてこられるかが合格へのポイントである。せっかく計算が解けても小数点の位置がずれてしまえば不正解となってしまうので、計算が終わっても油断せずに解答用紙に答えを書いてほしい。
	B	86 %	90 %		
	C	96 %	100 %		
	D	94 %	98 %		
	問 2	86 %	98 %		
	問 3	67 %	79 %		
	問 4	58 %	77 %		
	問 5	27 %	46 %		
	問 6	67 %	85 %		
	問 7	36 %	62 %		
4	問 1	83 %	95 %	電池と電球の接続のしかたと電球の明るさの関係を理解できているか確認する。問題文を読み取って、図2の回路と図3の回路が同等に考えられること、また、図4の回路も結局同等であることに気づくことができるかどうかがポイントとなる。	前半は基本的な回路での出題となったため、よくできていた。後半の複雑な回路では、問題文から図2、図3の回路と同等にみなすことができることに気づいた受験生は少なかったようだ。文章を読んで、しっかりと頭で考えて解答してもらいたい。
	問 2	50 %	67 %		
	問 3	72 %	80 %		
	問 4	94 %	100 %		
	問 5	18 %	28 %		
	問 6	14 %	20 %		
	問 7	12 %	23 %		
	問 8	13 %	16 %		

● 2026 年度　中学入試　第４回　国語　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問１　A	65％	83％	論理的な文章の大問として、指示語の内容把握、接続語の用法理解、短文の内容説明、全体の主旨理解を問うものなど、オーソドックスな出題を心がけた。	出題のねらいにも書いたが、論理的な文章から作られるオーソドックスな問題にきちんと対応できていたかが合否の分かれ目になったようだ。記述問題は第１～３回と大きく難易度を変えてはいないが合格者も含めて非常に得点率が低くなった。受験生には何を問われ何を答えるべきかをきちんと考える力をつけて入試に臨んでもらいたい。
	B	62％	77％		
	C	90％	94％		
	問２	43％	60％		
	問３	15％	18％		
	問４	66％	87％		
	問５	66％	72％		
	問６	53％	65％		
	問７	73％	87％		
	問８　(1)	61％	72％		
	(2)	42％	70％		
	問９	60％	72％		
2	問１　a	63％	72％	主人公が幼いころを振り返り、家族から愛されていたことをかみしめる物語。描かれている時代こそ明治だが、今と変わらない家族の愛や人々の心情を読み取ってもらうことを意図した。	文章自体はオーソドックスで、語句・表現も現代のものと変わらないのだが、古い時代を描いているということで戸惑った人が多かったのかもしれない。その時代の文化や習慣などを知っているということも、小説の読解には必要だ。
	b	18％	15％		
	問２	14％	18％		
	問３	73％	83％		
	問４	39％	43％		
	問５	45％	55％		
	問６	40％	49％		
	問７	31％	38％		
	問８	42％	45％		
	問９	33％	55％		
3	問１	35％	55％	詩のテーマが見えにくい詩ではあるが、幻想的な空間イメージと現実的な空間世界を行き来する作品世界を自在に読み取れるかを問う。定番となっている、基本的な修辞や詩型を問う。	修辞や詩型を問う問題で、いずれも６割を切っており、第四回ということもあり、詩に対する取り組みが不十分な一定数いたように感じる。詩、全体の世界観を問う問題で６割を切っており、全体イメージがつかみきれなかったようにも感じる。
	問２	52％	60％		
	問３	43％	60％		
	問４	78％	89％		
	問５	51％	60％		
4	問１　1	83％	96％	漢字については、間違いやすいが、しっかり学習している受験生は正答することができるものを選び、出題した。四字熟語については、簡単なものと難しいものを織り交ぜて出題し細かいところまでしっかり学習した受験生が得点できる問題にした。	漢字については、間違いやすい漢字をしっかり意識して学習している受験生とそうでない受験生の差が開いていた。四字熟語については、簡単なもの、難しいものどちらの問題でも全受験生と、合格者の間で得点率に差が出ていた。丁寧に漢字や四字熟語の勉強をした受験生が高得点をとれたと思われる。
	2	29％	47％		
	3	82％	96％		
	4	49％	75％		
	5	86％	96％		
	問２　①漢字	28％	45％		
	①意味	73％	85％		
	②漢字	87％	96％		
	②意味	83％	100％		
	③漢字	13％	23％		
	③意味	26％	43％		
	④漢字	81％	92％		
	④意味	98％	100％		
	⑤漢字	69％	81％		
	⑤意味	68％	81％		

● 2026 年度　中学入試　第４回　算数　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	(1)	94％	98％	基本的な特殊算や図形の計量の小問集合。四則演算、特殊算の基本問題、規則、図形（平面・立体）の計量を出題した。この問題を通して、種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものである。問１・２は計算問題、問３～６は特殊算を幅広い分野から、問７・８は図形の問題を出題した。	基本的な計算は例年と変わらない得点率であった。問６の場合の数に関する問題については、和集合の処理の際に、両方に当てはまる数の和を引く作業をしなかった受験生が多く、その分正解率が下がった。例年正解率が高くない図形の問題は、全体的によくできていた。
	(2)	95％	98％		
	(3)	98％	100％		
	(4)	80％	98％		
	(5)	64％	81％		
	(6)	37％	53％		
	(7)	56％	79％		
	(8)	76％	91％		
2	(1)	82％	98％	本校では特徴的な平面図形と比を絡める問題であり、平行四辺形を題材とした。問１・問２は辺の比、問３は面積の割合を求める問題である。辺の比を利用して、面積計算をするという、図形に関する性質を受験生に求めた。	本校では頻出となる平面図形と比の問題であり、本校の対策をしてきた受験生にとっては、やや易しい問題であったようである。苦手とする面積の割合は、合格者と不合格者で出来が分かれる問題となった。
	(2)	64％	87％		
	(3)	35％	77％		
3	(1)	89％	96％	速さの問題。問１は基本的な問題、問２・問３は問１の解答をもとに計算する問題であるが、問題の状況をしっかりと把握し、丁寧に考えていく必要がある。問３は正解にたどりつくまでに考えることが多いため、やや難易度の高い問題である。	問１は基本的な問題であり、問題の内容も頻出のタイプであるため、よくできていた。問３は、A町に着くまでや、追い越すまでにかかる時間など、一つずつ丁寧に調べていくことが必要であった。例年に比べ、基本問題の正解率が高かったことにより、問３の合格者の正解率が高くなったようである。
	(2)	72％	91％		
	(3)	29％	62％		
4	(1)	45％	83％	ある枚数のカードとそこに書かれている数字から、ゲームの得点を計算し、その得点の特徴を考える問題である。数の和の特徴をとらえ、得点の合計がどうなればよいかを考え、そこから状況を分析する力を問う問題である。	例年出題しているが、ゲームのルールを理解できるかどうかで正解と不正解で分かれた。一方で問２の記述の問題については、合格している受験生はよくかけており、合格・不合格を左右する問題であった。
	(2)	37％	71％		
5	(1)	70％	89％	立方体の切断とそれに伴う体積の問題。図形の切断についての基本的な理解ができているか。それに伴い、色のついている立方体の個数を的確に数えられるかを問う問題であった。	立方体の切断についての問題。頻出の立体であり、イメージし易い問題であった。そのため問１はしっかり得点することができていた。問２は切断面が五角形であり、やや難易度を高く設定した問題のため、切断の跡と黒の立方体の個数の両方を考えなければならないため、正解率は伸びなかった。
	(2)	5％	15％		

● 2026 年度　中学入試　第４回　社会　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問１　あ	75％	91％	日本の人口推移を説明した文章をもとに、人口・農業・都市に関連した基礎的知識を問う問題を出題した。地理の基本となる「図表を正しく読み取る力」に加えて、「事象を短文で説明する力」の２点を意識して出題した。	基礎的事項を確認する問題については全般的によくできていた。説明文については、説明に必要な語句を複数書き出し、整理してから解答しよう。図表を正しく読み取る力については、地理の技能として重視している。見落とさないよう注意すること、学んできた知識を重ねることを意識しよう。
	い	58％	68％		
	う	63％	70％		
	問２	78％	91％		
	問３	39％	51％		
	問４	67％	81％		
	問５	77％	91％		
	問６	55％	68％		
	問７	46％	60％		
	問８	63％	79％		
	問９	7％	9％		
2	問１	34％	55％	古代から近現代にいたるまでの日本の歴史について、時代ごとの重要事項やその内容について正確かつ深い理解ができているかどうかを問う問題を出題した。解答は基本的な事柄であっても、多面的な理解ができているかを見るために出題の仕方を工夫した。	標準的な難易度の問題の正答率が伸び悩んだ結果、歴史分野全体としての正答率も低かった。一問一答式にワンパターンで覚えるのではなく、時代背景や前後関係など、想像力をはたらかせながら学習し、理解を深めていくことが求められる。
	問２	59％	77％		
	問３	76％	89％		
	問４	68％	66％		
	問５	62％	85％		
	問６	2％	0％		
	問７	52％	74％		
	問８	77％	77％		
	問９	66％	83％		
	問 10	1％	0％		
	問 11	50％	68％		
	問 12	16％	23％		
	問 13　人物	21％	28％		
	時期	36％	45％		
	問 14　(1)	80％	89％		
	(2)	1％	0％		
	問 15	42％	51％		
	問 16　あ	63％	77％		
	い	78％	91％		
	う	44％	66％		
3	問１	78％	94％	2025年に起きた出来事を題材に、国会、選挙の仕組み、憲法などの公民分野の基礎知識を問う問題を出題した。また日ごろ新聞やニュース報道に触れているかを問う問題も出題した。	概ねよく出来ていた。選挙制度などは変更を重ねてきているので、最新の情報を知識として定着させる必要がある。また、公民分野では憲法に関する最低限の知識、理解が不可欠である。
	問２	54％	66％		
	問３	49％	60％		
	問４	61％	87％		
	問５	30％	38％		
	問６	47％	36％		
	問７	65％	83％		
	問８	81％	96％		
	問９	73％	83％		
	問 10	41％	64％		
	問 11	76％	89％		
	問 12	28％	32％		
	問 13	79％	87％		

● 2026 年度　中学入試　第４回　理科　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問１	87％	89％	多くの受験生は小学校の課程でアサガオやヒマワリ、ジャガイモなどを栽培した経験があると思う。育て方によって成長に違いが出ることは感覚的に理解していると思うが、これを科学的に分析し理由を考えさせる問題を出題した。	知識問題の正答率は非常に高い。合否で差がついたのは、会話文や問題文を正しく理解し関係性を式化する問題、グラフの変化の様子を正しく説明している文を選ぶ問題だった。暗記だけでなく思考する力を高める学習を大切にしてもらいたい。
	問２	88％	96％		
	問３	54％	62％		
	問４	57％	66％		
	問５	94％	98％		
	問６	68％	79％		
2	問１	44％	68％	風の吹き方及びその仕組み、天気図、時事を含んだ内容について基本的な知識の有無を問うことを主な狙いとしつつ、一部はその知識について深堀して思考力をとう問題も出題した。	分野の性質上、知っているかどうかが分かれ目になってしまうことから、全体的には得点率は低めに出たが、時事に関する用語については得点率が高かった。また、知識を総合的に鑑みて判断・思考する問題で得点率の開きが出た。
	問２　(1) 点Ａ	4％	4％		
	(1) 点Ｂ	5％	4％		
	(2)	33％	38％		
	(3)	58％	64％		
	(4)	97％	100％		
	問３　(1)	87％	94％		
	(2)	59％	64％		
3	問１	66％	72％	硫酸の性質や、硫酸にまつわる計算を問うた問題である。 知識ではなく、与えられた情報をもとに、計算をすることや正答にたどり着くことができるかどうかがポイントになる問題であった。	見慣れない問題のためか、想定しているよりも正答率は低かったように感じる。 知らなくてはできないことは多くはなかったため、落ち着いて情報を読み取り整理する力が必要である。それに加えて本問では高い計算力も求められたため、受験生にとっては難しい問題となった。 全体的に、正答率にばらつきがあり、差のつく問題となった。
	問２	36％	49％		
	問３	19％	36％		
	問４	46％	70％		
	問５	22％	43％		
	問６　(1)	15％	23％		
	(2)	15％	23％		
4	問１	85％	98％	熱の吸収・放出による温度変化についての問題。熱と温度変化の関係について、文章および表から必要な情報を整理し、解答に至ることができるかを問うた。	温度についての基本知識を身に着けている受験生は多かった。表の読み取りで、受験生による差が大きく出た。さらにその結果を活用する段階で差がつき、後半の問題は受験生全体にとって難しいものとなった。
	問２	71％	100％		
	問３	21％	49％		
	問４	23％	30％		
	問５	27％	36％		
	問６	12％	19％		

● 2026 年度　中学入試　帰国生 AB 方式　国語　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問 1	82％	87％	帰国生入試ということもあり、世界中の多様な文化・歴史・価値観を理解する視点を持つことの必要性を問う文章を出題した。内容理解の問いだけではなく、知識や文章のつながりの問いを設け、全般的な国語力を問うことをねらいとした。	問４の四字熟語「和魂洋才」の問題は、単純な知識だけではなく、本文の内容からも答えに導いてもらいたく出題した。分からない熟語と出会ったときに、その熟語の構成や漢字ごとの意味をしっかりと考える習慣をつけてほしい。
	問 2	64％	70％		
	問 3	89％	96％		
	問 4	8％	13％		
	問 5	72％	78％		
	問 6	41％	51％		
	問 7　Ⅰ	76％	85％		
	Ⅱ	82％	89％		
	問 8	37％	46％		
	問 9	50％	54％		
2	問 1	59％	61％	丁寧に読むことによって、状況が把握できる文章を選んだ。脱文補充、言葉の意味、擬態語の空欄補充といった基本問題、選択問題、抜き出し問題といった読解問題ともに本文をとにかくしっかり読めば正答にたどり着けるように意識して出題した。	問３までの基本的な問題については、全体的には、おおよそ予想通りの得点率であったが、個々の問題で見ると得点率の高低の差が出てしまった。文章の深い内容を問う読解問題については、作品のテーマをしっかり把握できている受験生が正答することができていた。特に長めの選択肢にした問題については、選択肢を粘り強く読めている受験生が合格者に多く見られた。
	問 2　a	63％	70％		
	b	94％	97％		
	c	46％	52％		
	問 3	81％	80％		
	問 4	87％	93％		
	問 5	87％	95％		
	問 6	56％	63％		
	問 7	68％	77％		
	問 8	32％	42％		
	問 9	61％	71％		
	問 10	37％	42％		
3	問 1	44％	45％	短く平易なことばで書かれた詩を読み、ことばとことばのつながりから豊かな表現世界を読み取ってもらおうとの意図で出題した。詩の読解にあたっては、タイトルをふくめたことばのつながりに気づくことで、作者の意図に迫ることができるはずである。タイトルが一見難解だが、六月＝夏、蜜柑水＝優しいのイメージにつなげて読むことで、詩の世界に入っていくことができる。	どの設問も５割前後の得点率であったが、特に問２と問３の出来がポイントだったようだ。６行からなる短い詩の中で、感嘆符「！」や命令形が使われている２行目が全体の主題と気づいたうえで、僕＝作者の指に詩が咲いてほしいという表現が、良い詩が書きたいという願望と読み取りたい。詩の中心さえつかめれば、他の問いも解きやすかったはずである。
	問 2	44％	55％		
	問 3	56％	69％		
	問 4	47％	48％		
	問 5	59％	64％		
4	問 1　1	64％	76％	漢字は同音で異字があるものを中心に出題した。知識問題は四字熟語を知識を問うことを中心に様々な数字が入るものを出題した。熟語には数字が入るものや、体の一部が入るものなど様々なものがあるので、たくさんの言葉を知ってほしい。	全体的に漢字や四字熟語はよく勉強してあり、正答率は高かったと感じた。語いを増やすことはすべての学習の要でもあると思うので、知識の一つとして今回のような問題に対応できるような力を身につけてほしい。
	2	73％	82％		
	3	95％	97％		
	4	88％	96％		
	5	58％	61％		
	問 2　A	76％	80％		
	B	78％	90％		
	C	82％	88％		
	D	76％	81％		
	E	85％	91％		

● 2026 年度　中学入試　帰国生 AB 方式　算数　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	(1)	97％	97％	基本的な特殊算や図形の計量の小問集合。四則演算、単位換算、特殊算、速さ、図形（平面・立体）の計量などの問題を出題した。種々の問題を速く正確に処理する能力を問うものであった。	例年よりも、小問集合の得点率が高く、合格を目指すためにはこのレベルの小問集合は確実に取りたい。問８の立体図形の計量については、回転させた後の立体をイメージすることが出来れば、得点できる問題である。
	(2)	95％	99％		
	(3)	85％	90％		
	(4)	92％	97％		
	(5)	81％	96％		
	(6)	83％	97％		
	(7)	69％	86％		
	(8)	53％	64％		
2	(1)	81％	95％	速さに関する中学入試では典型的な問題である。問１は平均の速さの考え方がわかっているかを問う問題。問2、3は上り坂・下り坂の道のりを求める問題。行きの時間と帰りの時間の差をうまく活用できるかがポイントであった。	問１は比較的出来ていた。文章が長いこともあり、状況が読み取れない受験生が多く、問１と比べると問2、3の正答率が大きく下がってしまった。文章から状況をしっかりと整理し、解く力を身に付けてほしい。
	(2)	43％	61％		
	(3)	32％	46％		
3	(1)	76％	92％	平面図形と面積比を絡めた標準的な問題である。問１は相似比を利用して線分比を求める基本問題。問２は２つの辺の比２組から３つの辺の比を求める典型問題。問３は問1、２の結果を利用し、線分比から四角形の面積比を求める問題であった。	問1、２は線分比の基本から標準レベルの問題であり、得点率は高かった。問３は底辺の比から進めていき三角形の面積比そして四角形の面積比を求めていく問題であった。合格を勝ち取るためには確実に得点を取りたい問題であり、全受験生と合格者との得点率の差を見ても、合否を分けた問題となったことがわかる。
	(2)	51％	75％		
	(3)	36％	58％		
4	(1)	96％	98％	投影図から立体を考える標準的な問題である。問１は「真上からみた図」と「真横から見た図」から使われている立方体の個数を考える問題。問２は使われている立方体の個数が最も多いときの表面積を求める問題であった。	全体的によく出来ており、問1、２ともに得点率は高かった。このような基本的な、かつ得点すべき問題を確実に得点できる力も身に付けてほしい。
	(2)	79％	87％		
5	(1)	62％	77％	整数と場合の数を絡めた問題である。問１は、カードを５つの枠に埋め計算結果が「数」となる場合を考える問題。問２は計算結果が「整数」となる場合を考える問題であった。	計算式の分数の形を考えて、結果が一番大きい数・整数になるものを考えられるかがポイントである。□/□□が０より大きく１未満であるので、まず□/□が最大になるものを考えるという発想がでてくれば、問1、２ともに得点できたであろう。
	(2)	25％	36％		

● 2026 年度　中学入試　帰国生 A 方式　英語　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	Q1	55％	84％	英検準 1 級レベルの語句を主題した。また大学入試レベルの基本的な文法事項が理解できているか、英単語重要派生語が綴れるかどうかを出題した。問題は基本的な問題を中心に出題した。	概ね、語句、文法問題はよくできていたと言える。しかしながら、英単語を書くとなると正確性が低いように思えた。この点は強く意識して入学後学習に励んでほしい。
	Q2	65％	71％		
	Q3	75％	97％		
	Q4	88％	100％		
	Q5	29％	45％		
	Q6	92％	100％		
	Q7	88％	94％		
	Q8	74％	90％		
	Q9	25％	39％		
	Q10	15％	23％		
2	(1)	86％	100％	数者によるやり取りが続くやや長めの英会話の文を読み、その内容を正しく理解した上で、選択肢から空所を埋める作業により全体を要約させる問題である。受験生の英語読解力と論理性を伴った思考ができるかを問うている。	全受験生と合格者の得点率は高い相関性があると考えられる。合否の差は主に英語理解力の差と判断できるが、(3) は選択肢の priorities（優先事項）という語が、帰国子女にとっても語彙レベルが高く、全体として正解率が低かったものと考える。
	(2)	82％	97％		
	(3)	49％	71％		
	(4)	66％	81％		
	(5)	55％	77％		
	(6)	75％	97％		
	(7)	65％	84％		
	(8)	82％	94％		
	(9)	57％	77％		
	(10)	66％	87％		
3	Q1	96％	100％	大学入試レベルで求められる文法力を駆使して、英文を文脈に応じて整序できるかを問うた。受験生に簡単な論理性を伴った思考ができるかを問うた。	出来は非常に良好と言える。基本的な文法事項は十分に理解していると言える。文法は読解や作文に不可欠な事項。入学後も引き続き学習を継続してほしい。
	Q2	38％	51％		
	Q3	55％	77％		
	Q4	57％	74％		
	Q5	59％	84％		
4	Ⅰ	69％	84％	動物にも文化が存在し、大人の象の行動を子どもが見て学んだり、群れの中でリーダーが誕生し、長年の経験を生かして干ばつなどの災害のなか周囲が生き残れるように、リーダーシップを発揮することが分かってきたという内容であった。	今回はパラグラフ毎の要旨をまとめさせる問題で、全体の趣旨を答えさせる形式の出題となった。概してよくできており、main point を意識しながら答えられたものと見受けられる。
	Ⅱ	69％	87％		
	Ⅲ	62％	77％		
	Ⅳ	66％	77％		
	Ⅴ	65％	81％		
5	Q1	48％	59％	物語文を素材に、主に日本語での記述（和訳・説明）問題を通して、英語の読解力だけでなく、読み取った内容を日本語で表現する力も測った。長文中の語彙レベルはそれほど高くないものの、話の流れをしっかりと理解した上で日本語で過不足なく的確に記述できることを求めている。	単純な日本語訳だけでなく、話の流れをふまえて日本語でまとめる問題もあり、全体的な得点率は想定よりも低かった。わからない語句の意味を類推しながら話の筋を追うのはもちろんのこと、細かい点まで丁寧に読み、正確に日本語で表現する練習も重ねてほしい。
	Q2	68％	79％		
	Q3	46％	65％		
	Q4	48％	68％		

● 2026 年度　中学入試　帰国生 B 方式　社会　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問 1　(1)	56 %	56 %	地理分野と歴史分野からの出題。都道府県庁所在地や特徴、歴史用語の書き取りや、各時代の特徴の正誤問題、時代順の並べ替えなど、基本問題の知識の確認や、複数の知識を組み合わせて解くような例年にならった構成にした。	全体的に高い正答率となった。問 1 (1) は宍道湖と大山がどちらの県にあるかまで抑えておきたい。問 2 (2) は路線図を頭に入れるよりは、東北地方の県の場所などを考えると解けるきっかけになるはず。時間的な制約が大きいため、ある程度のスピードが求められるが質は落としたくない。
	(2)	85 %	91 %		
	(3)	82 %	89 %		
	問 2　(1)	60 %	63 %		
	(2)	35 %	33 %		
	(3)	81 %	88 %		
	問 3　(1)	72 %	84 %		
	(2)	61 %	64 %		
	(3)	89 %	91 %		
	問 4　(1)	80 %	88 %		
	(2)	76 %	81 %		
2	問 1	97 %	99 %	近現代分野と公民分野からの出題。政治分野では昨年に引き続き、憲法 9 条や憲法改正条文の空所補充問題を出題した。また選挙もあった関係でそれに触れる内容にした。出題数は昨年並みの多さになっているため、ある程度、スピードも必要となる。	問 2 は一見すると簡単だが、きちんと文章をよまないとひっかかる。近現代分野の並べ替え問題は、事実の羅列だけにとどめてしまうとなかなか難しいので、首相は誰の時期に発生したのかなど、関連付けながら抑えるとかなり精度が上がる。憲法改正の条文など設問によっては、過去問と似たような形式のものもあるため、しっかりと正解したい。
	問 2	44 %	40 %		
	問 3	67 %	73 %		
	問 4	55 %	59 %		
	問 5　(1)	69 %	79 %		
	(2)	83 %	93 %		
	問 6　(1) あ	35 %	39 %		
	(1) い	85 %	89 %		
	(1) う	96 %	99 %		
	(1) え	86 %	97 %		
	(1) お	89 %	96 %		
	(2) かき	79 %	89 %		
	問 7	42 %	48 %		
	問 8	41 %	44 %		
	問 9	74 %	81 %		
	問 10	15 %	19 %		

● 2026 年度　中学入試　帰国生 B 方式　理科　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問 1	58 %	67 %	植物の光合成曲線を題材にした問題である。問1は教科書の知識が定着しているか問う知識問題。問2～6はリード文をヒントにしてグラフを読み取る問題である。計算問題も混在し、複合的な能力を試している。	問4～6について、問4、5のような単純な計算問題はできているが、問6のようなリード文をからめた複合問題については、手こずった様子が見受けられる。問1の知識は少し細かい内容だったため、表面上の知識では解きにくい内容だった。ただ、合格者は総じてよく内容理解ができていた。
	問 2	84 %	93 %		
	問 3	80 %	93 %		
	問 4	80 %	92 %		
	問 5	72 %	92 %		
	問 6	53 %	73 %		
2	問 1	87 %	95 %	フェーン現象を題材にした温度や湿度を計算するという典型的な気象分野の問題である。フェーン現象は山を越えて吹く風が高温・乾燥になる現象で、乾燥した空気は100m上昇・下降すると気温が1℃変化し、湿った空気は100m上昇・下降すると気温が0.5℃変化することと、雲ができている場所は湿度100％であることとを使って解いていく問題である。	問2は雲のできるようすを気圧の変化、空気塊の体積の変化、熱のやり取りについて聞いているため、計算問題より難しかったようである。また、問4は雲ができている場所は湿度100％であることを知らないと、ふもとの湿度を計算できないため、得点率が低かったようである。
	問 2	33 %	40 %		
	問 3	90 %	95 %		
	問 4	27 %	35 %		
	問 5	40 %	52 %		
3	問 1	46 %	63 %	溶解度に関する問題を出題し、濃度や析出量の計算ができるか、実験の基本的な操作についての知識があるかなど基本的な知識力と計算力をはかることをねらいとした。	問1から苦戦した受験生も少なくないようで、この問題は同じ水溶液であれば、100gでも200gでも濃さは変わらないという点を考えられるかがポイントであった。また、問2・問3でも水100gの場合を考えるのだが、この2問はかなり正答率が異なった。
	問 2	26 %	35 %		
	問 3	60 %	73 %		
	問 4	63 %	69 %		
	問 5	84 %	88 %		
4	問 1	85 %	88 %	一部はてこを利用した知識問題も出題したが、基本的にすべて、てこのつり合いを解く問題を様々な形で出題し、条件に合致する組み合わせを考察できるかどうかを問うことを主なねらいとした。	計算に時間がかかると予想される問いも含まれていたたが、全体としてしっかりと解けており、基本的な計算はできていた。それ以上のところで、論理的に条件を詰めていく必要のある問いでは得点率が分かれた。
	問 2	86 %	93 %		
	問 3	74 %	88 %		
	問 4	60 %	72 %		
	問 5	47 %	53 %		

● 2026 年度　中学入試　グローバル　英語　設問別得点率

大問	小問	得点率		出題のねらい	講　評
		全受験生	合格者		
1	問 1	90％	100％	会話文中の空欄に入る適切な動詞を選ぶ問題。基本動詞等の語彙力を問う。もし必要があれば、文脈に合わせて正しい形に直さなければならない。したがって、しっかりとした不規則変化動詞の知識も当然必要とされる。	基本動詞については、習熟度のかなり高い受験生が本試験に挑戦しているようである。但し、語形変化となると多少苦慮している傾向が見られる。また、頻出の熟語についても、日頃から意識的に習得する姿勢が大切である。
	問 2	95％	100％		
	問 3	83％	100％		
	問 4	80％	100％		
	問 5	78％	80％		
	問 6	93％	100％		
	問 7	68％	93％		
	問 8	73％	93％		
	問 9	70％	87％		
	問 10	73％	87％		
2	問 1	95％	100％	単語、熟語、文法の知識を統合し、文脈に合わせて適切な英文を完成させる能力を問う。各問とも並べ換えた上で、2番目と4番目の語句を解答する。単なる知識の寄せ集めでは対応できない。英作文につながる力の有無を確認する問題。	英検準2級レベルを意識した問題が多く含まれる中で、非常によく対応できているようであった。分詞構文や関係代名詞を含んだ問題であっても合格者は運用できていることがうかがえた。合格者の平均正答率は約98％となっており、今後の活躍が大いに期待される。
	問 2	93％	100％		
	問 3	90％	100％		
	問 4	80％	100％		
	問 5	73％	93％		
	問 6	88％	100％		
	問 7	88％	100％		
	問 8	75％	93％		
	問 9	100％	100％		
	問 10	78％	93％		
3	(1)	85％	93％	メッセージ形式の長文を読み、筆者が発信する情報を時系列順に正確に読み取れるかどうかを問う問題である。時間の推移と登場人物の関係をしっかりと把握する必要がある。解答は番号で答えさせる形式で、上記内容と併せて、本文の言い換え表現をどれだけ理解しているかが解答へのカギとなっている。	正答率は例年同様、かなり高い結果となった。選択肢の内容も、英検準2級とほぼ同等レベルであったため、基礎的な学習が出来ている受験生は迷わず解答できたものと思われる。
	(2)	93％	100％		
	(3)	88％	100％		
4	問 1　①	85％	93％	長文を論理の展開に沿って理解できているかを確認するため、要所要所キーワードとなる語を抜き、選択肢とした。また同じく、時制や能動・受動などが正しく理解できているかを確認するため、動詞の活用も問う総合問題とした。	結果は、文の流れに沿った語を選択する問題は比較的良好ではあったものの、動詞の活用については、正答率は今一つであった。やはり文を正確に読み取るために、文法をしっかり勉強してもらいたい。
	②	68％	80％		
	⑤	73％	93％		
	⑦	80％	100％		
	問 2　③	80％	93％		
	④	53％	73％		
	⑥	65％	80％		
5	問 1	49％	60％	長めの英文を読み、日本語訳も含めその内容を把握できているかを確認する問題。和訳を出題しているのは、内容を理解しながら適切に日本語に訳せるかを問うためである。和訳は長文全体の流れの中での一文を的確に理解しているか、また文法を理解して和訳してるかにポイントを置いた。内容理解問題では、段落毎にきちんと内容をまとめながら読み進めていくことができるかに主眼を置いている。	準2級レベルの問題である。内容的に小学生には馴染みの薄いものであるかと思われるが、得点率の高い問題も多く、十分な実力があると判断することができる。和訳の採点は内容理解ができているかを中心に考えて行った。受験生の解答から、訳す際にやや難渋した様子のものも散見されたが、英文の主張や話の流れを正確に把握している様子が感じられた。
	問 2　(1)	73％	80％		
	(2)	93％	100％		
	(3)	90％	100％		
	(4)	95％	100％		